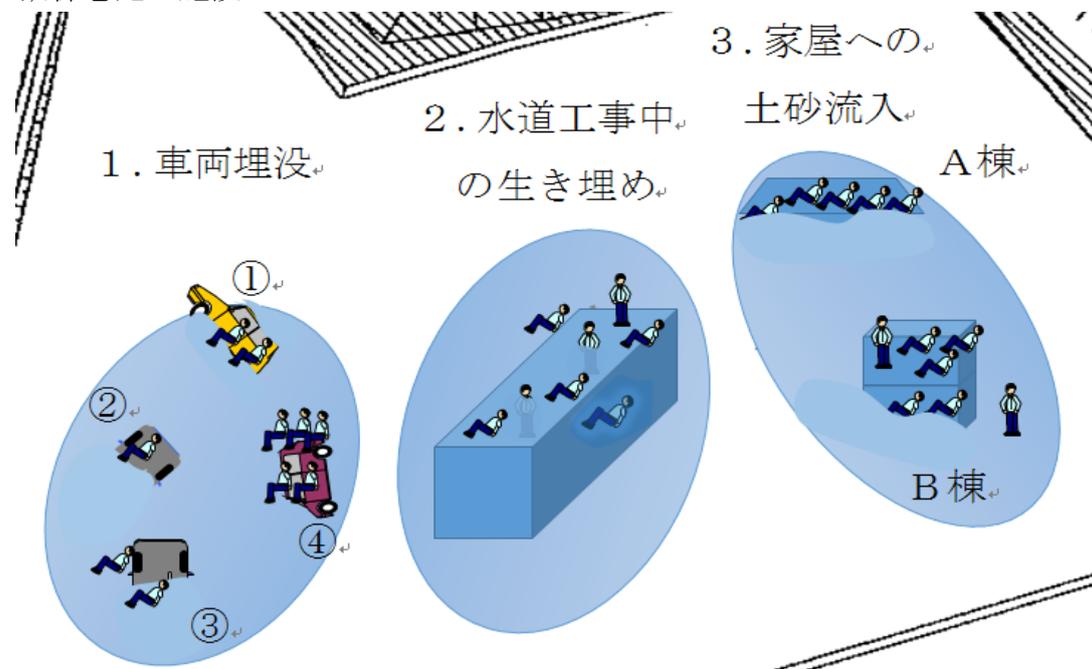


1 訓練項目別概要票

訓練名称	土砂災害救出訓練							訓練番号	14
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	90分	13時25分	13時30分	15時00分					
訓練場所	松江市北消防署 東部分署								
訓練想定	土砂災害が発生し要救助者がとり残されている。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●多様な事故形態が想定される土砂災害の現場において、過去の災害を基に3種類（車両埋没・水道工事中の生き埋め・家屋への土砂流入）の訓練想定を設定した。</p> <p>★土砂災害におけるトリアージ方法、重機の有効的な活用、要救助者へ対しての土圧の適切な管理及び傾斜した建物への適切な安定化処置を考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>								
参加部隊	隊別	鳥取県	岡山県	島根県					合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数					隊数
	統合機動部隊指揮隊	1	1						2
	救助小隊	1	2	1					4
	津波・大規模風水害対策車(バギー)			1					1
	消火小隊	1	1	1					3
	救急小隊	1	2	1					4
	特殊装備小隊(重機)		1						1
	合計	4	7	4					15
《活動概要》									
<p>1 統括統合機動部隊長 現場指揮本部を設置し、各県統合機動部隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</p> <p>2 救助小隊及び消火小隊 土砂災害現場において特殊装備小隊と共に効果的な活動及び救急活動支援を実施</p> <p>3 救助小隊（バギー） 土砂災害現場において傷病者の搬送が困難な場所から応急救護所までの傷病者搬送を実施</p> <p>4 特殊装備小隊（重機） 土砂災害現場において救助小隊と共に効果的な救助活動を実施</p> <p>5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及び実施</p> <p>6 島根県石油協同組合 被災地へ集結した応援車両へ対して、ローリから給油を実施（給油は模擬とし、仮貯蔵・仮取扱の検証を実施）</p>									
関係機関	島根県石油協同組合								
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊								

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

1	被災車両4台 (①赤2名、②赤1名、③黄1名・赤1名、④黄4名・緑1名)
2	土砂上に緑5名、土砂胸まで黄1名、土砂首まで赤1名、土砂下1.5m黒1名
3	A棟 (緑1名、黄2名、赤2名) B棟 1階 (緑1名、赤3名) 2階 (緑2名、赤1名)

【傷病程度等】

訓練番号	通し番号	負傷者						配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	昏倒	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧
		No	氏名	フリガナ	関係	性別	年齢		START	PAT	有・無	タイミング								
①	1	佐藤 浩二 (ダミー)	サトウコウジ	車両3	女	40	車両1運転席	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	36	100	138	80/55	
①	2	木村 順 (ダミー)	キムラジュン	車両3	男	30	車両1後部席	赤	赤	無		フレイルチェスト	不可	30	無	48	95	145	110/65	
①	3	田中 美保 (ダミー)	タナカミホ	車両1	女	25	車両2運転席	赤	赤	無		多発外傷	不可	300	無	36	92	156	90/60	
①	4	川田 康太 (ダミー)	カワタコウタ	車両2	男	32	車両3運転席	黄	赤	有	救出後	眼帯打撲	不可	3	有	24	97	100	130/80	
①	5	斎藤 高志 (ダミー)	サイトウタカシ	車両2	男	35	車両3助手席	赤	赤	無		頭部打撲	不可	100	無	40	88	120	70/30	
①	6			車両4	男		車両4運転席	黄	赤	有	救出中	左胸部痛	不可	3	有	12	93	60	110/60	
①	7			車両4	男		車両4助手席	黄	黄	無		右足骨折	不可	300	無	6	90	40	測定不能	
①	8			車両4	男		車両4後部席	黄	赤	有	救出中		不可	0	有	24	98	100	130/80	
①	9			車両4	男		車両4後部席	黄	黄	無		右足骨折	不可	3	有	12	93	60	110/60	
①	10			車両4	男		車両4後部席	黄	黄	無		右足骨折	不可	300	無	6	90	40	測定不能	
②	11	豊川 均 (ダミー)	アイカワトシ	作業員1	男	50	土の中 (-1.5m)	黒	黒	有		CPA	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
②	12	芦田 康史 (ダミー)	アシダヤスシ	作業員2	男	30	土の中 (首だけ出る)	赤	赤	無		左足挫創	不可	30	無	48	95	145	110/65	
②	13	鳥越 謙治 (ダミー)	トリゴケンジ	作業員3	男	42	土の中 (胸まで出る)	黄	赤	無	救出中		不可	300	無	6	85	60	80/40	
②	14			作業員4	男		土の上	緑	緑				不可	1	有	18	98	100	120/80	
②	15			作業員5	男		土の上	緑	緑				不可	100	無	25	95	96	130/75	
②	16			作業員6	男		土の上	緑	緑				不可							
②	17			作業員7	男		土の上	緑	緑				不可							
②	18			作業員9	男		土の上	緑	黄	有	救出後	眼帯打撲	不可	300	無	40	88	120	70/30	
③	19			A棟住人①	女		A棟 屋根下	緑	緑				不可	100	無	40	88	120	70/30	
③	20			A棟住人②	男		A棟 屋根下	赤	赤	無		骨盤骨折	不可	300	無	12	87	60	100/60	
③	21	矢島 敦美 (ダミー)	ヤジマアツミ	A棟住人③	女	74	A棟 屋根下	赤	赤	無		頭部出血・発火煙	不可	300	無	6	85	60	80/40	
③	22			A棟住人④	男		A棟 屋根下	黄	赤	有	救出後	脳卒中	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
③	23			A棟住人⑤	女		A棟 屋根下	黄	黄	無		右足打撲	不可	1	有	6	90	50	30/40	
③	24	那須 隆 (ダミー)	ナスタカシ	B棟住人①	男	30	B棟 1階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	30	有	18	98	90	120/80	
③	25	那須 めぐみ (ダミー)	シマダメグミ	B棟住人②	女	29	B棟 1階	赤	黒	有	救出中	骨盤骨折	不可	0	有	18	99	90	140/90	
③	26			B棟住人③	男		B棟 外	緑	緑				不可	0	有	18	99	80	120/80	
③	27			B棟住人④	男		B棟 1階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	0	有	18	99	80	120/80	
③	28			B棟住人⑤	男		B棟 2階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	36	100	138	80/55	
③	29			B棟住人⑥	男		B棟 2階	赤	赤	無		両大腿骨折	不可	100	無	30	100	130	90/60	
③	30			B棟住人⑦	男		B棟 2階	緑	緑				不可							

3 訓練評価

【参加部隊】

- (1) 土砂災害生埋め者救出訓練において、訓練時間内に要救助者の発見に至らず、訓練終了後も要救助者の位置等が不明であった。訓練終了後に、訓練参加隊への詳細な訓練想定（要救助者情報）のフィードバックがあれば、各隊の反省に活かすことができる。（岡山県統合機動部隊）
- (2) 救急隊の活動は救急隊に全て任されるような指示があったが、救急隊は岡山県隊に2隊しかおらず、傷病者の数からすると、救急隊を統括する人員を設ける余裕がなかった。流動的に島根県隊の救急隊に指揮を執ってもらい指揮隊との調整を依頼した。救急隊の統括責任者を設け、その指揮の下で救急隊が活動する。（2日目の部隊運用訓練では救急隊の統括責任者が明確で、活動がしやすかった。）（岡山県統合機動部隊）
- (3) 即応訓練時、DMATの要請、派遣について実際に部隊が来るのか、みなしなのか分からず、訓練中に混乱した部分があった。ブラインド訓練なので、要領等について必要最低限の打合せはしっかりしておく必要があると思われます。（鳥取県統合機動部隊）
- (4) 即応訓練（土砂災害）時、統合機動部隊が2隊（岡山、鳥取）おり、岡山県隊が指揮を取ることとなったが、指揮所が2箇所設営及び岡山の訓練ブースの前に鳥取指揮所、鳥取訓練ブース前に岡山指揮所が設営され、どちらが統括指揮所か迷う場面があった。（島根県内参加部隊）
- (5) 土砂災害訓練においては救出面だけでなく、国土交通省（TEC-FORCE）と連携し、二次災害対策を含んだ総合的な訓練を行う必要がある。（島根県内参加部隊）

4 活動状況

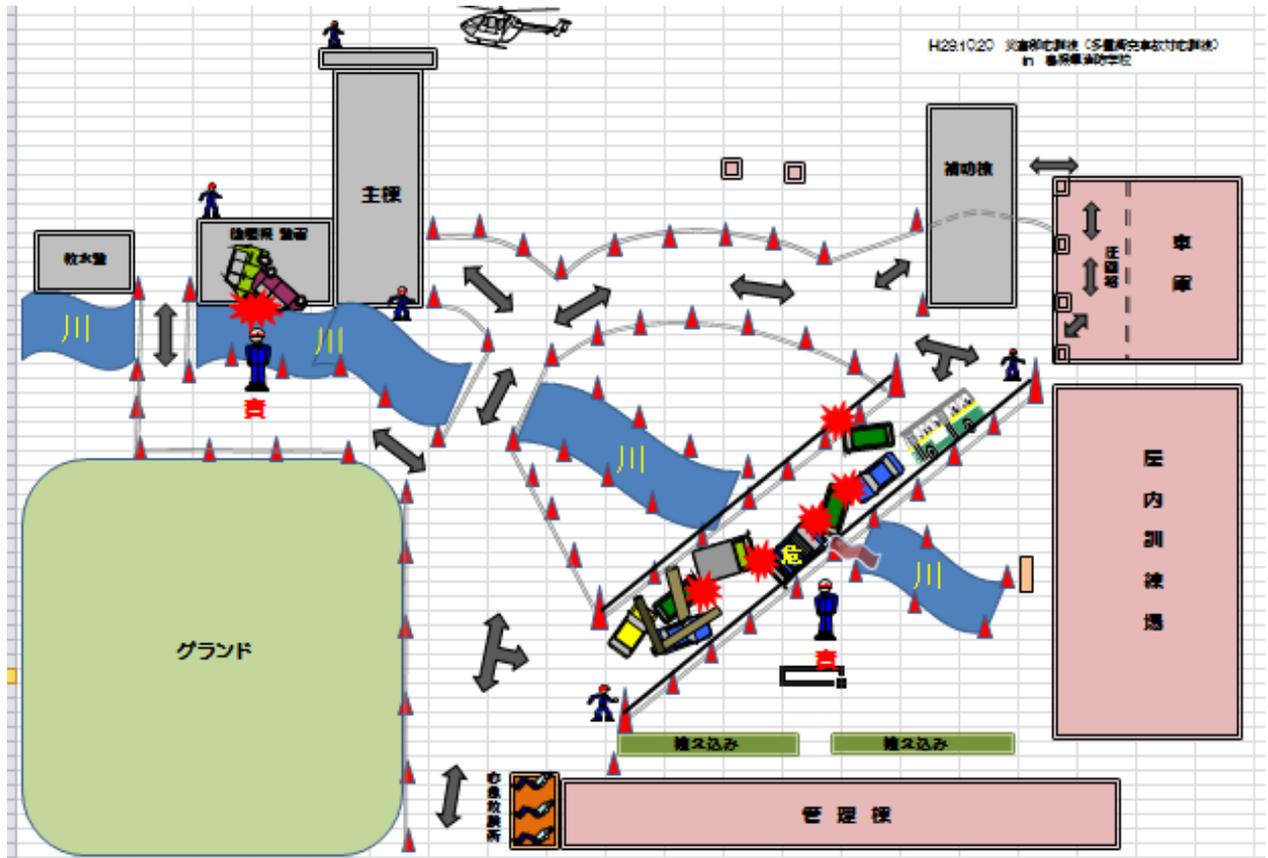




1 訓練項目別概要票

訓練名称	多重事故衝突事故対応訓練							訓練番号	15
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	90分	13時25分	13時30分	15時00分					
訓練場所	島根県消防学校								
訓練想定	多重衝突事故が発生し要救助者がとり残されている。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●対応が困難な想定される多重衝突事故の現場において、過去の災害を基に2種類（橋梁上での危険物積載車両と丸太運搬車両が絡む多重衝突事故・立体駐車場から河川への転落事故）の訓練想定を設定した。</p> <p>★危険物積載車両への適切な対応、救助工作車が進入不能な橋梁上での救助活動、ヘリコプターとの連携及び水際での活動におけるゾーニング（PFDの適切な着装）を考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>								
参加部隊	隊別	広島県	山口県	島根県					合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数					隊数
	統合機動部隊指揮隊	1	1						2
	救助小隊	3	2	1					6
	消火小隊	2	2	1					5
	救急小隊	2	2	1					5
	通信支援小隊 (無線中継車)	1							1
	後方支援小隊	8	2						10
	合計	17	9	3					29
《活動概要》									
<ol style="list-style-type: none"> 1 統括統合機動部隊長 現場指揮本部を設置し、各県統合機動部隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 消火小隊 危険物積載車両の事故における適切な対応を実施 3 救助小隊 橋梁上及び河川への墜落による活動困難な状況における効果的な救助活動を実施 4 通信支援小隊 災害現場における情報を遠隔地へ効果的に伝達 5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及び実施 									
関係機関									
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊								

2 訓練想定・施設



【要救助者状況】

橋梁	車両9台 要救助者21名(赤4名、黄4名、緑13名)
立駐	車両2台 要救助者4名(黄2名、赤2名)

【傷病程度等】

車両番号	通し番号	負傷者						トリアージ			負傷箇所	歩行	意識(JCS)	生命	呼吸数	SP02 (%)	脈拍数	血圧
		No	氏名	フリガナ	関係	性別	年齢	START	PAT	有・無								
①	1					男		緑	緑	無		可	0	有				
②	2	緒方 加奈	オガタ カナ	車両⑩の運転手	女	40	赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	300	無	18	90	130	70/30	
③	3	木村 佑	キムラ ユウ	車両⑩の運転手	男	30	赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	200	無	42	90	130	80/40	
④	4			車両⑩助手席の同僚	男		赤	赤	無	骨盤打撲	不可	100	無	24	97	120	130/90	
⑤	5			車両⑩運転手の同僚	女		黄	黄	有	後頭部違和感	不可	3	有	18	98	60	100/60	
⑥	6			車両⑩の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑦	7			車両⑩運転手の同僚	男		黄	黄	無	胸部打撲痕	不可	2	有	18	96	80	150/80	
⑧	8			車両⑩助手席の同僚	男		赤	赤	無	胸部打撲痕	不可	100	無	10	92	40	70/30	
⑨	9			車両⑩運転手の同僚	男		黄	黄	無	両大腿痛	不可	0	有	18	99	90	110/60	
⑩	10			車両⑩助手席の上司	男		黄	黄	有	腹部圧痛	不可	3	有	24	97	100	120/80	
⑪	11			車両⑩運転席の部下	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑫	12			車両⑩の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑬	13			車両⑩の運転手	男		緑	緑	無		可	0	有					
⑭	14	1	立川 美恵	タチカワ ミエ	助手席と夫婦	女	51	赤	赤	無	胸部・骨盤打撲	不可	200	無	18	90	130	70/30
⑮	15	2			運転席と夫婦	男		黄	黄	無	両大腿痛	不可	3	有	18	98	60	100/60
⑯	16	3	浅井 絵理	アサイ エリ	助手席の友人	女	25	赤	赤	無	骨盤打撲	不可	30	無	48	95	100	135/80
⑰	17	4			運転席の友人	女		黄	黄	無	頸部・腰部痛	不可	3	有	18	98	60	100/60

3 訓練評価

【島根県評価員】

- (1) 大型車両が訓練場入口に停車したため後続の車両が進入できなかった。車両誘導員の増員及び活動を考慮した誘導をするため入念な打合せの実施が必要。
- (2) 消防学校敷地内の訓練に於いて、消防車両が行き詰まり救急車両の搬出ルートが塞がれていた。被災地職員役を増員し、車両誘導を行う必要性を感じる。

4 活動状況





1 訓練項目別概要票

訓練名称	後方支援活動訓練										訓練番号	16
訓練日時	10月20日(金) 16:00 ~ 10月21日(土) 6:00											
訓練場所	後方支援活動訓練会場等											
訓練想定	自己完結型の後方支援活動訓練を実施する。 <small>訓練趣旨</small> ●被災地における長期間にわたる消防活動を想定し、県大隊ごとに自己完結による後方支援活動を実施する。 ★宿営地における清潔区域の確保（デコンタミネーション）及びゴミの削減に着目した後方支援活動の展開を想定した。											
参加部隊	隊別	広島県	岡山県	兵庫県	鳥取県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	島根県	合計
	部隊名	隊数	隊数									
	指揮支援部隊長	1										1
	指揮支援隊長		1	1								2
	県大隊指揮隊	1	2		2	1	1	1	1	1	1	9
	消火小隊	6	3		3	3	1	2	2	3	3	23
	救助小隊	3	3		3	2	1	3	1	1	4	17
	救急小隊	3	3		3	2	2	4	2	1	4	18
	通信支援小隊	1								1		2
	後方支援小隊	17	4		7	6	3	4	4	3	4	45
	特殊災害小隊											0
	特殊装備小隊	2	1		1						2	6
島根県内消防応援隊指揮隊代行										1	1	
合計	34	17	1	19	14	8	14	10	10	19	146	
<p>《活動概要》</p> <p>1 全隊 後方支援小隊を中心に後方支援活動を実施</p> <p>2 県大隊 燃料補給車を活用した燃料補給訓練を実施 (給油は模擬とし、仮貯蔵・仮取扱の検証を実施)</p>												
備考	<p>指揮支援隊の宿営場所</p> <p>広島市消防局指揮支援隊（指揮支援部隊長）及び岡山市消防局指揮支援隊は島根県消防学校とし、神戸市消防局指揮支援隊は安来市消防本部庁舎とした。</p>											

3 訓練評価

【参加部隊】

- (1) 会場のグラウンド状況については最適（全天候型）であったが、車両の進入及び駐車ができないため、資器材の搬入・搬出が困難であった。後方支援車両のうち、資器材を積載している車両の駐車場所の確保等（広島県大隊）
- (2) 宿営地である松江総合グラウンドの陸上競技場内への進入については、デコンの観点から運動靴への履き替えを促されていたが、徹底されていなかった。また、デコンエリアがかなり簡素的なものだった。デコンについても、後方支援訓練の一環であることを周知徹底を図るとともに、デコンエリアを広く設定すること。（岡山県大隊）
- (3) 清潔区間確保（デコンタミネーション）の徹底がなされていたとは思えなかった。たらい、ブラシ及び水タンク（桶）を準備していたが、周知不足で表示も分からなかった。隊員配置を考慮できればよいと考える。（愛媛県大隊）
- (4) 各県大隊の宿営エリアが事前に指定されていた。激励巡視等の関係上、実施計画で各県大隊の宿営エリアが事前に指定されているが、実災害を想定すれば宿営エリア等については現地で検討すべき事項であると考えられるため早期に到着した県大隊等に宿営エリアの割振りを行わせる。（徳島県大隊）

4 活動状況



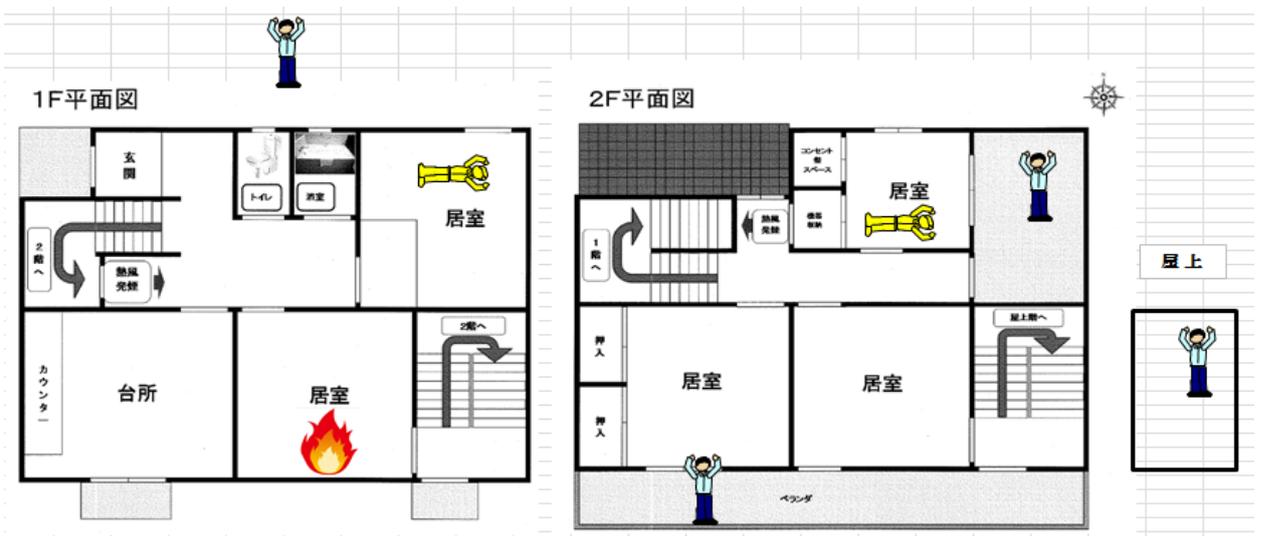
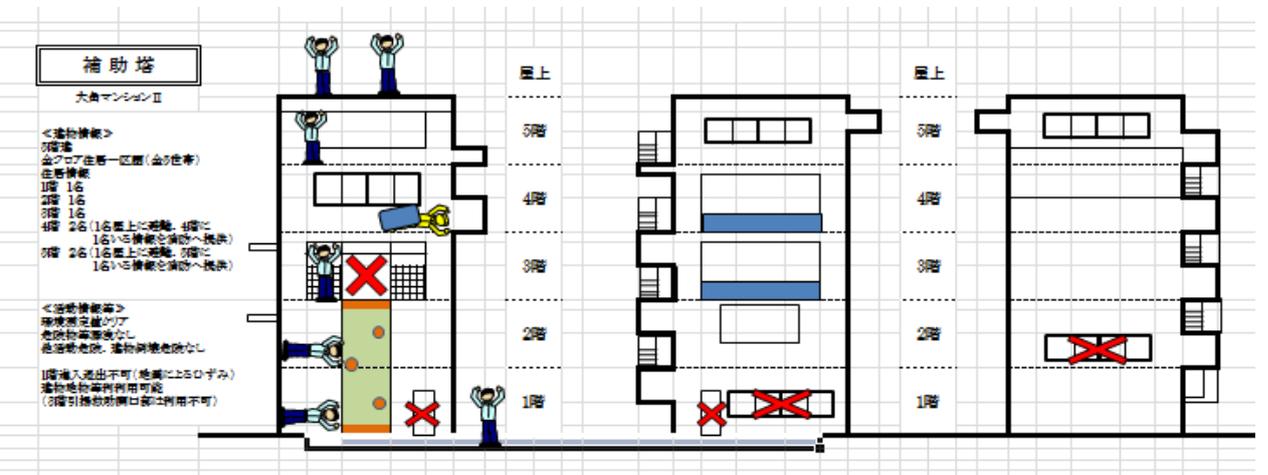
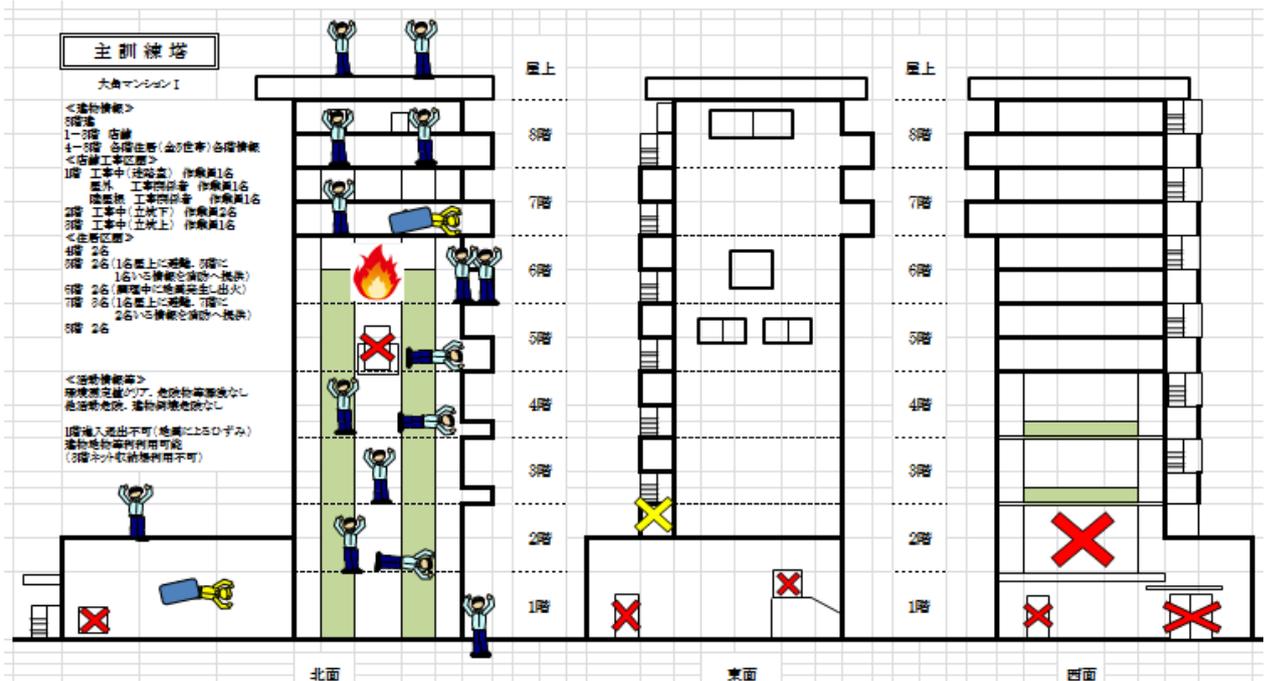
訓練項目別概要票

訓練名称	活動ミーティング	訓練番号	17
訓練主眼	2日目(21日)の部隊移動後の活動内容及び活動方針等について活動ミーティングを実施する。		
訓練日時	10月20日(金) 17:15 ~ 18:15		
訓練場所	後方支援活動訓練会場(松江総合運動公園 陸上競技場内会議室)		
活動概要	<p>1 指揮支援部隊長 被害状況、部隊規模及び部隊の装備特色等を考慮し、被災地ごとの部隊配置について指示下命</p> <p>2 指揮支援隊長 指揮支援隊が指揮支援部隊長により部隊配置の指示を受けた緊急消防援助隊と連携するうえで、被害状況及び編成された部隊の特色等を考慮し、統括県大隊長を指名し、活動調整を実施</p>		
参加機関	指揮支援部隊長・各指揮支援隊長・各県大隊長 島根県内消防応援隊指揮隊・島根県内消防応援隊指揮隊代行		
訓練担当	松江市消防本部・安来市消防本部		
備考			

1 訓練項目別概要票

訓練名称	夜間訓練							訓練番号	18
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	105分	19時05分	19時15分	21時00分					
訓練場所	島根県消防学校								
訓練想定	島根県消防学校において中高層火災及び街区火災が発生又、地震により狭隘空間へ要救助者がとり残されている。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●夜間における中高層火災及び街区火災又、地震による狭隘空間への閉じ込めを想定し訓練を設定した。</p> <p>★梯子車の有効な活用、中高層建物における階段使用不能等の活動障害を考慮した活動及び狭隘空間における要救助者の予後考慮した効果的な救助活動の展開を想定した。</p>								
参加部隊	隊別	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	島根県			合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数	隊数			隊数
	県大隊指揮隊	1	1	1	1	2			6
	救助小隊	1	3	1	1				6
	消火小隊	1	2	2	2	1			8
	救急小隊	2	3	2	1				8
	特殊装備小隊（梯子車）					1			1
合計	5	9	6	5	4			29	
<p>《活動概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 統括県大隊長 現場指揮本部を設置し、各県大隊及び県内応援隊の活動調整及び指揮系統を明確化した活動を実施 2 消火小隊 中高層火災・街区火災及び狭隘空間救助への適切な対応を実施 3 救助小隊 中高層火災・街区火災及び狭隘空間救助への適切な対応を実施 4 特殊装備小隊（梯子車） 中高層火災における効果的な車両活用を実施 5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所の設置及びびを実施 									
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊								

消防学校消防活動訓練棟



消防学校CSR訓練場



【要救助者情報】

消防活動訓練棟

主訓練塔

	要救数	要救情報	付加
屋上	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
8階	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
7階	2名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	重量物除去→救助資機材 活用必要
6階	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	火災発生(発煙時)
5階	1名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測	E-目撃者
4階	2名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 右下観打撲 1 (参行不)②(参)② → バイタル等実測	
3階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	2階から3階への 屋外階段活用禁止
2階	3名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測 くさばら 搬送要救 1 (生)② → バイタル等実測 右下観打撲(参行不)②(参)② → バイタル等実測	E-目撃者 ホコリ消滅時活用不可
1階	2名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測 くさばら 重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	1階進入理由不可 重量物除去→救助資機材 活用必要
計17名 (生体15、ダミー2)			

補助塔

	要救数	要救情報	付加
屋上	2名	手振り要救 2 (生)② → バイタル等実測	
5階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	
4階	1名	重量物下敷 1 (参)② → ダミー活用(空室活用)	重量物除去→救助資機材 活用必要
3階	1名	手振り要救 1 (生)② → バイタル等実測	引換開口部活用不可
2階	1名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測	
1階	2名	搬送要救(参行不)②(参)② → バイタル等実測 右下観打撲(参行不)②(参)② → バイタル等実測	1階進入理由不可
計8名 (生体7、ダミー1)			

福富方専用住宅 《建物情報》 耐火 2/0 居住者6名。出火場所は1階居室。

《活動情報》 オール電化住宅、ガス設備なし、建物倒壊危険なし

ドームは隣接工場と仮定する。ドーム内火災等災害なし。関係者等設けず。
出火原因は、鍋をしていたら、地震でカセットコンロが倒れた。

	要救数	要救情報	付加
1階	2 (1)	建物外②×1 ダミー②×1 CPA	開錠は玄関のみ 他は内部から開錠可 居室炎上
2階	3	ダミー②×1 CPA 手振り要救②×2 生体 バイタル等実測	
屋上	1	手振り要救②×1 生体 バイタル等実測	

計6名(生体4、ダミー2)

CSR訓練場

本田方専用住宅 《建物情報》 耐火 1/0 居住者3名。平屋建建物が倒壊。
 《活動情報》 オール電化住宅、ガス設備なし、建物倒壊危険なし
 環境測定値クリア。危険物等漏洩なし。他活動危険なし。

	要救数	要救情報	付加
1階	2 (1)	ダミー①×1 CPA 生体② ×1 建物外③×1	進入は南側○位置のみ
計3名(生体2、ダミー1)			

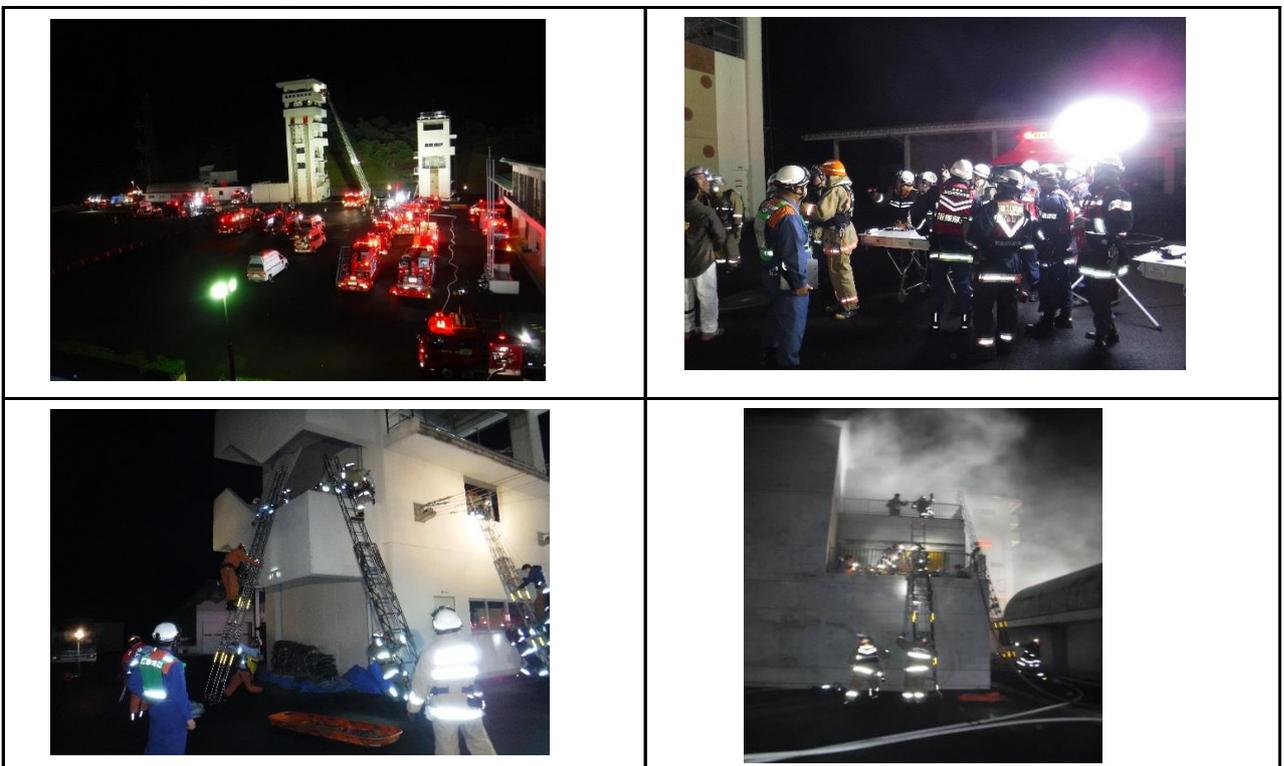
3 訓練評価

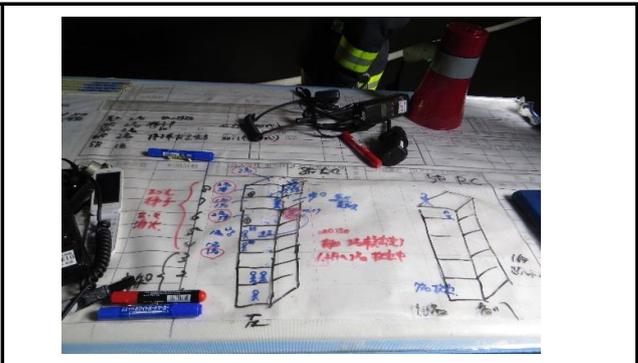
【参加部隊】

- (1) 訓練開始の指示等がコントローラー側と訓練実施側と意思疎通がうまくいかず、少し手間取ってしまう場面があった。訓練開始時間は、野宮訓練場所を出発する時から開始して、順次到着した大隊から訓練に着手しても良いのではないかと感じる。(高知県大隊)
- (2) 実災害を考慮して、指令からの動き出しが同じであれば、遅延した隊があったとしても訓練開始して良いと感じた。また、訓練の進行状況確認及び安全管理を担うスタッフの打ち合わせは重要なので、ミーティングの時間は十分に取って行うべきと考える。(島根県内消防本部)
- (3) 消防学校での訓練は、学生の傷病者役での参加や高層建物を想定した訓練の実施が出来る等のメリットを感じた。(島根県内消防本部)

4 活動状況

●中高層火災対応訓練・街区火災対応訓練





● 狹隘空間救助訓練

